

【ものづくり 人づくり 地域づくり】


 みんなの力をあわせて 40年

10/30「協同・感謝のつどい」

先輩組合員からのメッセージ



前期20年の歴代理事のみなさん

1975年設立発起人、元理事
藤瀬純子さん

藤瀬です。1975年の発起人でした。あらためてなんですが、みなさんのお話を聞きながら、山あり谷ありだったけれども、こんなにすばらしい生協になって、誇らしくもあり、また今一組合員として供給を受け取っているだけの組合員ですが、そういう意味ではちょっと恥ずかしくなります。

最初の頃は本当に添加物についてとか、合成洗剤についてとか、牛乳の殺菌消毒についてとか、いろいろ学ぶことがありまして、それがおもしろくておもしろくてたまらないという個人的な思いが多かったように思います。もちろん子どもたちにそうした有害なものを食べさせたくないという気持ちからだったんですが、そういう学ぶことが楽しかった。北海道の根釧牛乳の開発のために出かけたこともありました。

今は若い皆さん方にお任せして何もしていないんですけど、これからも常総生協がますます発展していきますように陰ながら頑張っていきたいと思っています。ありがとうございました。

1980年～元理事
武長祐子さん

武長です。今新しい生協の建物ができましたが、その前の、そのもうひとつ前の、とてもこれが事務所かと思えるような、建設現場の飯場のようなプレハブの事務所でいろいろな活動をしていました。

そのころは商品なんかも、大豆も一俵まるごと送られてきて、職員の方は配送で精一杯でとても組合員の味噌づくりのための大豆をお世話できないという状況でしたので、一俵の大豆を1kgづつ計って袋詰めして組合員に届けるというなつかしい思い出があります。1、2年してから常総生協にはやまこ味噌さんがあるのに、どうして麴がないの?となり、先代のやまこさんのところにおじゃまして麴を供給してもらえるようになって、それで味噌づくりの原料が揃い、その時には地区の組合員の活動が盛んで、各地区の組合員がお世話してくれて味噌づくりがはじまりました。それがずっと今も続いているんだなと思うとうれしいです。

私たちが若かったですし、子どもたちにいいものを、食はいのちっていうことを伝えていくためには母親が動かなければいけないと思って頑張りましたが、それが今もみんなに続いているのかなと。今はいろんな問題をかかえていますけれども、その時はその時なりに頑張れたのかなと思います。生協が今こんなに成長して社会にも発信できる生協になったことはとても嬉しくて、これからも頑張ってもらいたいと思います。

先輩組合員からのメッセージ

（司会）最初に歴代の理事長・副理事長のみなさんをご紹介します。畠山さん、浜地さん、岩下さん、羽田さんです。

畠山さんには、バブル期末期の内部運営混乱を解決して頂き、理事長として常総生協運営の再建に努力され、生協の合併・吸収の再編成の中で独立への道筋をつくって頂きました。

浜地さん、岩下さん、羽田さんにはこうした激動期の生協で副理事長役として支えて頂きました。

代表して、畠山さんより一言お言葉をいただけますでしょうか。



1993～2003年 元理事長（守谷市） 畠山智子さん

理事長をかつてさせて頂きました畠山と申します。常総生協がこのような盛大な会ができたということは本当にうれしい限りです。

私は今横浜に住んでおりまして、こちらに来る途中昔のこともいろいろずっと考えてきましたときに、当時（バブルが崩壊したあとの90年はじめ）その頃が常総生協のみならず、いろいろな生協も「転換期」というか、いろんな事が変わった時期だったと思います。日本の社会そのものも変わった時期だと思います。

その中で、常総生協が「生き残れた」というのは、こうして個を守れたということは、ひとえにみなさまのお手元にある歴史の中にある取手生協の基盤があったからこそだと私は思っております。取手の井野団地でできた、牛乳、卵を買いましょうという主婦の集まりが、自然と環境のことも考え、生産者さんとの協力も考え、そしてこつこつと地道に、ひとつの



和綿のひざかけ（左）を贈らせていただきました。右側、浜地さん、岩下さん、畠山さん



地方というよりひとつのクニ（里）として、自覚を持った市民と生産者が立ち上げた生協であればこそ、生き残れたのではないかと思います。

本当に先達のみなさま、生産者のみなさま、ここにお集まりのみなさまのお力があってからこそこの40年であったことと思います。本当に長い間ありがとうございました。

その中で、私に哲学を教えてくださいました、元やさと農協の萩原組合長が、私に「生協も市民も農業もそうだけれど、すべからく私たちは孫の代、子孫の代まで守らなければいけないものがある。それをしっかり守っていくんだよ」ということを教えて下さいましたが、ああ農業をされている方の言葉というのは本当に尊いと感じまして、常総生協もそこに基本があるんじゃないかと思いました。どうか子孫の代まで、この日本、地球を守れるような、そこに努力できる生協であって欲しいと思います。そのためにはみなさま方のご協力がますます必要となって参ります。どうかこれからもよろしくお願い申し上げます。

(司会) 続きまして、役職員としてたいへんな時期を乗り切って下さった糟谷さん、三島さん前にお進み下さい。

糟谷さんは、常総生協の危機を救い、また生協の再編制の中で常総生協独立への立て直しをしてくださいました。人間としての高い理想をもった人格者として私たちの精神的支柱として、他方で極めて現実的な判断と行動を指導して今の常総生協の基礎を形作って下さいました。常総生協の商品の基本を生産者と共に作り上げて下さいました。

三島さんは、1996年当時たいへんな状況だった経理・財務の立て直しをしてくださいました。もうおひとかた、料理・手作りの基礎を担ってくださいました中川凧子さんもごいっしょ頂きたかったのですが長崎にもどられておられますので記念品を送らせて頂きます。



1990～2008 副理事長，商品担当職員 糟谷文子さん

みなさま、本日はお忙しい中をお集まり頂きまして本当にありがとうございます。たいへんに身に余るお言葉を頂戴いたしましたけれど、もしわたくしがそのようなことができたといたしましたら、それはたくさんの生産者、そしてメーカーのみなさんが、真にいのちを育むことができる商品を長く届け続けてくださった賜物だと感謝しております。無理難題をずいぶん申し上げました。誠に申し訳なかったと思いますが、よくぞ聞いてくださり助けて下さいました。深く感謝を申し上げます。

私ども職員は、その頂く商品を、どう組合員の台所の中で活用して頂き、そして家族の健康にどう役立てて頂くか、そのことを考えるだけで精一杯でした。ここにいらっしゃる三島さん、そして長崎にいる中川さん、本当によく働いてくれました。タイムカードを押してからまた一仕事、そしてお家に持ち帰ってまでもお仕事をしてくれました。今考えるとたいへんで



右、糟谷さん、三島さん

あったと思います。時々お電話で話すことがありますけれど、「あの頃がいちばん良かったね」と言って下さいます。わたくしはホッとします。そういう言葉が私たちを和ませてくれます。お医者に通っていると聞くと、ああ生協で働きすぎたんじゃないかと心配しております。

そして私ども職員は、本当にそういう商品があったから続けられたし、また家族の健康もみなさんと共に守り続けてこられたかなという気がしております。

月日の経つのは逆に言うありがたいもので、たいへんな苦しみも今となって思えばみんな楽しく思い出されます。これもまたありがたいことだと思っております。

時代が変わって、仕事の内容というのはより複雑になっていると思います。原発の問題、そして目の前に迫っております TPP の問題。複雑化する仕事を職員の仕事としてそれを大きなテーマから小さなものにかみ砕いて毎日の仕事の中に組み込んでいくということは大変な作業であることと思っておりますけれども、それをやってこそその職員であるとわたくしは思います。

ぜひ退職後の楽しみを作ってくださいのためにも今こそ踏ん張りどころだと思います。ぜひ頑張ってくださいと思います。

そして生産者、メーカーのみなさんには末永く商品を届けて下さいますこと、そして常総生協を応援して下さいますこと、この場をお借りしましてよろしく願い申し上げます。本日はどうもありがとうございました。

生産者からのメッセージ

(司会) さて1996年、常総生協が生協の事業連合会「北関東協同センター」を脱退して独立した時、日本生協連からも「どうせ3年で潰れるから待ていよう」と言われました。

そのとき、ランカスターの林さんが「常総生協をつぶしてはならない、みんなで支えよう」と生産者に呼びかけて下さり、応援団長として「業者会」を結成してくれ、物心両面で支えてくれました。

周囲からは様々な声があったかろうと存じますが、率先して常総生協業者会会長として名乗りを上げて頂き、ご尽力頂きました。本当にありがとうございました。和綿の膝掛けをお贈りいたします。



1996年 常総生協業者会初代会長 (株)ランカスター 会長 林悠さん

ご紹介頂きましたランカスターの林と申します。

よくここまで来るのは大変だったと、みなさまのご協力とでここまで来れたと思います。これまでのいろいろな事が思い出されます。長い間ありがとうございました。

常総生協を支えようと業者会をつくって、あれから20年になりましたが、大石さんが長い間いちばんご苦労されたことかと、もちろん糟谷さんもですが。長い間おつかれさまでした。

私も80歳になりまして、息子にバトンタッチいたし

ました。これから若い人たちも含めてどうかよろしくご指導頂けますようお願いいたします。

(司会) 現在の常総生協業者会でご尽力頂いている役員のみなさんをご紹介します。



(株)ニッコー・山崎さん、白鷹農産加工研・鈴木さん、藤井養蜂場・三浦さん、(株)塩屋・石原さん(代理で営業部長)



現業者会役員を代表して 藤井養蜂場 三浦修さん

40周年おめでとうございます。私も20年ちょっとになると思います。いろいろと勉強させて頂きました。

今は職員の方々がだいぶ若くなられて、ぜひみなさま方先輩の方々がまだまだ伝えきれていないことがたくさんあります。ぜひ若い人たちに伝えて頂いて、子孫が残るためにも皆さんのお知恵をもっともって頂いて、生産者も2代目、3代目になると思います。若い人たちにぜひとも先輩方の知恵、体験をもっともって伝えて頂きたいと思います。よろしくお願ひいたします。



初代会長林さんと握手する現業者会生産者のみなさん

【講演会のご案内】化学物質の危険を知る (2)

「増え続ける 身の回りの化学物質」

今、子どもを守るために知っておきたいこと

【日時】2015年 **12月5日** (土) 13～15時

【会場】つくば市並木公民館 2階大会議室

【講師】水野玲子さん (NPO 法人ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議理事)

【参加費】100円 / 1人 保育あり (500円要申込)

(連絡先) 松村理栄子さん (029-837-1670)

